

(19)

JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 09169617 A

(43) Date of publication of application: 30.06.97

(51) Int. Cl.

A61K 7/00

A45D 44/22

(21) Application number: 07335151

(71) Applicant: JAPAN GIYARUZU:KK

(22) Date of filing: 22.12.95

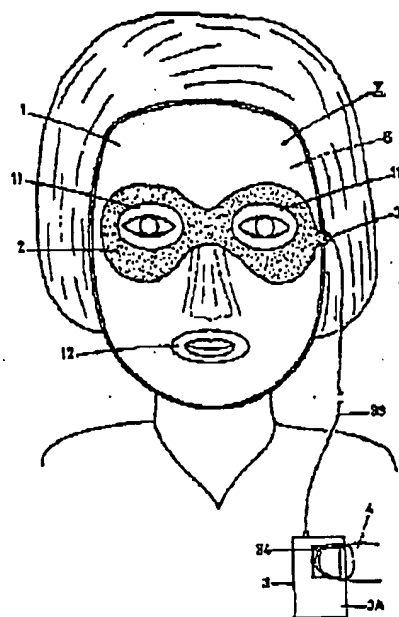
(72) Inventor: MATSUMURA HAJIME

## (54) MAKEUP MASK

## (57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prepare a makeup mask capable of sticking and absorbing a liquid for beautiful skin on the facial skin for a long period and simply performing the sticking operations by preparing a mask body of a water holding web and carrying out specific processing of the mask body.

**SOLUTION:** This makeup mask Z is obtained by using a web of a material having water holding properties and water resistance such as a nonwoven fabric, a paper or a cloth, preparing a mask body 1 having opened parts 11 and 12 corresponding to eyes and a mouth, impregnating the interior of the mask body 1 with a liquid for beautiful skin. A substance capable of radiating far infrared rays when heated to, e.g. about 25°C is preferably stuck to the web of the mask body 1. An electroconductive substance may be applied to a part of a prescribed area at a suitable place in the mask body 1 of the makeup mask Z. For example, silver printing is carried out in parts covering respective openings 11 and 11 for the eyes to provide a part 2 coated with the electroconductive substance. An electrode terminal 35 of an ion introducing device 3 can be connected to the part 2 coated therewith. That is, the beauty effects can be promoted by radiation of the far infrared rays and the beauty culture can simply be performed by ionic introduction due to the formation of the part 2 coated with the electroconductive substance.



COPYRIGHT: (C)1997,JPO

**PAGE BLANK**

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-169617

(43) 公開日 平成9年(1997)6月30日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

A 6 1 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 6 1 K 7/00

技術表示箇所

L

W

Z

C

A 4 5 D 44/22

A 4 5 D 44/22

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号

特願平7-335151

(22) 出願日

平成7年(1995)12月22日

(71) 出願人 593183595

株式会社ジャパングヤルズ

愛媛県伊予三島市中央三丁目六番八号

(72) 発明者 松村 元

愛媛県川之江市妻島町980番地の4

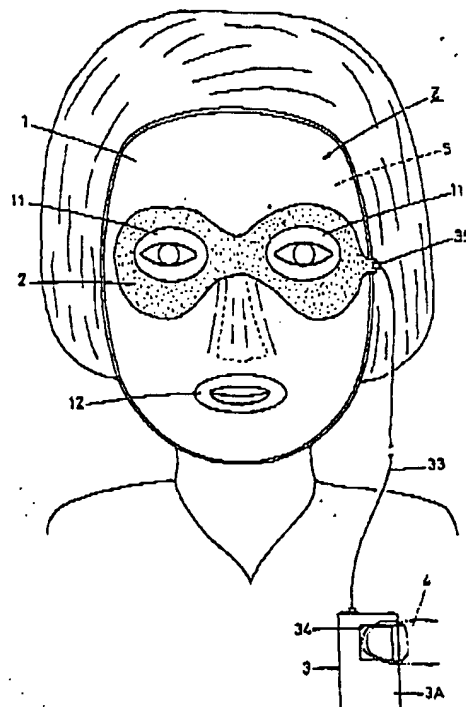
(74) 代理人 弁理士 大浜 博

(54) 【発明の名称】 化粧用マスク

(57) 【要約】

【課題】 顔肌に美肌用液を直接付着させる方法では、その付着作業が面倒であるとともに、付着させた美肌用液が短時間で乾燥するので美肌効果が乏しい。又、パック剤をパックする方法では、皮膚自体の活性化にはさほど効果がない。

【解決手段】 保水性を有する材質のウェブからなるマスク本体1中に美肌用液を含浸させておき、この化粧用マスクをそのまま顔面に被せることで美肌用液を顔肌に付着させ得るようにし、さらに顔肌に付着させた美肌用液が乾燥しないようにしている。又、マスク本体1に遠赤外線放射物質を付着させておくことにより、使用時に遠赤外線が顔肌を加温し得るようにしている。さらに、マスク本体1に通電可能な物質を印刷しておき、その通電物質塗布部2にイオン導入器3を接続することにより、美肌用液の有効成分をイオン化して顔肌に浸透させ得るようにしている。



特開平 9-169617

(2)

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 保水性を有する材質のウェブでマスク本体(1)を成形するとともに、該マスク本体(1)中に美肌用液を含浸させたことを特徴とする化粧用マスク。

【請求項2】 マスク本体(1)のウェブに遠赤外線放射物質を付着又は混入させたことを特徴とする請求項1に記載の化粧用マスク。

【請求項3】 マスク本体(1)のウェブに通電可能な物質を塗布し、該通電物質塗布部(2)にイオン導入器(3)の電極導子を接続可能としたことを特徴とする請求項1又は2に記載の化粧用マスク。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本願発明は、美顔目的で顔面に被せて使用される化粧用マスクに関するものである。

【0002】

【従来の技術】顔面の肌をいつまでも若々しく維持させることは、人々の願望であり、従来から、例えば、顔肌に化粧水等の美肌用液を付着させたり、顔肌にパック剤を塗布してパックする、等の美顔方法が行われている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、顔肌に化粧水等の美肌用液を付着させるには、容器中の美肌用液を手のひらで受けて、それを顔肌に付着させるようにするが、その間に美肌用液の一部が手のひらから零れることがあり、その場合には衣服や周辺を濡らすことがある。又、このように、化粧水等の美肌用液を直接顔肌に付着させる場合には、その付着させた美肌用液がごく短時間で蒸発・乾燥してしまい、美肌効果は極めて小さいものであった。尚、人の皮膚には、角質層の内側にバリアゾーンがあって、該バリアゾーンが外部からの異物(水分やイオン等)の侵入を阻止するようになっているので、皮膚の内層(真皮)部分まで美肌用液の有効成分が浸透しにくいのが実情である。

【0004】又、顔肌をパック剤でパックする場合は、パック剤を顔肌全面に延ばしながら塗布するが、パックするのに長時間を要し、且つその作業が面倒であった。尚、このように、パック剤による美顔方法では、パック剤で皮膚表面の汚れを吸着・除去する作用があるものの、皮膚自体の活性化にはさほど効果がない。

【0005】本願発明は、上記のような従来の化粧方法の問題点を鑑み、顔肌に長時間に亘って美肌用液を付着させることができ、且つその付着作業が簡単に行えるようにするとともに、美肌用液の有効成分を効果的に顔肌内に吸収させ得るようにした化粧用マスクを提供することを目的としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】本願発明は、上記課題を解決するための手段として次の構成を有している。

【0007】即ち、本願発明の化粧用マスクは、人の顔

2

面形状に合わせて成形してなるマスク本体中に化粧水等の美肌用液を含浸させている。

【0008】マスク本体としては、不織布、紙、布、等の保水性と耐水性を有する材質のウェブが使用される。又、マスク本体には、人の目や口が対応する部分に開口を形成しておくといよい。

【0009】マスク本体に含浸させる美肌用液は、液垂れが生じない程度に含ませる(例えば市販のウェットティッシュ程度の含浸量が好ましい)。

【0010】この化粧用マスクは、例えばウェットティッシュのように、折畳んだ状態で多数枚を密封容器内に収納しておき、容器から1枚ずつ引き出して使用し得るようにすると、使用に便利である。

【0011】又、本願発明では、マスク本体のウェブに遠赤外線放射物質を付着又は混入させることができる。遠赤外線放射物質としては、例えばセラミックスの微粉末が使用できる。

【0012】さらに、本願発明では、マスク本体のウェブに通電可能な物質を塗布し、該通電物質塗布部にイオン導入器の電極導子を接続し得るようにすることができる。この通電物質塗布部は、マスク本体の適宜の場所であり且つ適宜面積範囲に形成することができる。尚、この通電物質塗布部は、例えば銀印刷によって形成することができる。通電物質塗布部に接続されるイオン導入器は、次のような作用を有する。即ち、該イオン導入器には、陰陽(+-)の両電極導子を有しており、この化粧用マスクを顔面に被せた状態で、一方の電極導子を通電物質塗布部に接続し且つ他方の電極導子に身体(手指)を接触させることにより、マスク本体中に含浸されている美肌用液をイオン化し、そのイオン化した有効成分を皮膚内層に浸透させる作用をする。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図1～図4を参照して本願発明の実施形態を説明すると、この実施形態の化粧用マスク2は、顔肌的美容目的で顔面に被せて使用される。

【0014】図1～図3に示す化粧用マスク2は、顔面を被覆し得るマスク本体1中に化粧水等の美肌用液を含浸させている。

【0015】マスク本体1としては、不織布、紙、布、等の保水性と耐水性を有する材質のウェブが使用されている。そして、該ウェブを顔面形状に打ち抜いてマスク本体1を成形している。尚、マスク本体1には、人の目や口が対応する部分にそれぞれ開口11、12が形成されている。

【0016】マスク本体1には、化粧水等の美肌用液が液垂れしない程度(例えば市販のウェットティッシュ程度)に含浸されている。

【0017】又、この化粧用マスク2は、市販の容器入りウェットティッシュと同様に、多数枚を折畳んだ状態で密封容器内に収納しておき、使用時に1枚ずつ取り出

(3)

特開平 9-169617

3

せるようにした商品形態にするとよい。

【0018】又、マスク本体1のウェブには、例えば25℃程度まで加温されたときに遠赤外線（波長が8～12ミクロン程度）を放射する物質を付着させている。この遠赤外線放射物質としては、例えばセラミックスの微粉末が使用できる。セラミック微粉末をマスク本体1に付着させる方法としては、セラミック微粉末入りの溶液をウェブ中に含浸させたり、あるいはマスク本体1のウェブが不織布又は紙の場合では、セラミック微粉末を抄紙段階でウェブ中に混入させるようにしてもよい。

【0019】このように、遠赤外線放射物質（セラミック微粉末）を付着させた化粧用マスクZでは、この化粧用マスクを顔面に被せたときに、セラミック微粉末が体温によって人肌程度まで加温されて、遠赤外線を発するようになる。尚、波長が8～12ミクロン程度の遠赤外線は、顔肌の所定深さ（0.1mm程度の深さ）付近の細胞及び毛細血管を刺激して、顔肌部分の血行促進や組織の活性化に寄与する特性を有している。

【0020】又、この化粧用マスクZには、マスク本体1の適所の所定面積部分に、通電可能な物質を塗布している（符号2で示す通電物質塗布部）。図示例では、通電物質塗布部2として、目の各開口11、11を囲う部分に銀印刷を施している。尚、この通電物質塗布部2の形成場所及び形成面積は、適宜に設定できる。

【0021】この通電物質塗布部2には、図3に示すように、イオン導入器3の電極導子35が接続可能となっている。尚、イオン導入器3には、図4に示すように、陰陽（+）の両電極導子34、35を有する電気回路30が組み込まれている。尚、図4において、符号31はイオン導入器3内に収納された電池、32は変圧器である。

【0022】電気回路30の一方（例えば一極）の電極導子34は、イオン導入器本体3Aの外面に取付けられており、他方（例えば+極）の電極導子35は、リード線33の先端に取付けられている。尚、美肌用液は、その種類によって有効成分のイオン極性が予め解っているため、リード線33先端側の電極導子35を美肌用液の有効イオン極性と同極に設定しておく。尚、以下の説明では、イオン導入器本体3A側の電極導子34を一極とし、リード線33側の電極導子35を+極とする。

【0023】この化粧用マスクZ及びイオン導入器3を使用して、顔肌内にイオン導入する際には、化粧用マスクZ（美肌用液で湿潤状態である）の通電物質塗布部2にイオン導入器3の一方の電極導子35（+極）を接続した状態で、該化粧用マスクZで顔面を被覆する。尚、化粧用マスクで顔面を被覆したときには、マスク本体1中に含浸されている美肌用液の一部が顔肌5に付着するようになる。そして、手指4でイオン導入器本体3A側の電極導子34（一極）に接触すると、マスク本体1中の液体及び人体を介して電気回路30に微弱電流が流

4

れ、+極となる通電物質塗布部2によってその近傍にある美肌用液中の有効成分イオン（+イオン）を、顔肌5の角質層及びバリアゾーンを透過して真層内に押し込むことができる。尚、手指4側の電極導子34は一極となるので、美肌用液中の有効成分イオン（+イオン）は手指4側に吸引されるようになり、該有効成分イオンの真層中への吸収作用が活発となる。

【0024】この実施形態の化粧用マスクZでは、次のような作用がある。即ち、マスク本体1中には予め美肌用液が含浸されており、この化粧用マスクを顔面に被せるだけで、顔肌5のほぼ全面に美肌用液を付着させることができ、美肌用液を顔肌5に付着させる作業が簡単に行える。又、化粧用マスクを顔面に被せた状態では、マスク本体1で被覆されているので顔肌5に付着した美肌用液が乾燥しにくくなり、比較的長時間に亘って湿潤状態の美肌用液を顔肌5に付着させることができる。又、マスク本体1中には、遠赤外線放射物質（セラミックス微粉末）が混入されているので、マスク本体1が顔肌5の温度で加温されると、遠赤外線が放射され、それによって毛穴が開いて発汗作用・老廃物の排出作用が促進され、且つ血行が促進されて、顔肌の細胞が活性化するという作用が得られる。このことは、顔肌にとって、美容面で好作用が期待できる。さらに、化粧用マスクZを顔面に被せた状態で、通電物質塗布部2にイオン導入器3の電極導子35を接続すると、上記したように、美肌用液中の有効成分イオンが顔肌内に浸透するようになり、美容効果が一層促進される。

【0025】

【発明の効果】本願発明の化粧用マスクでは、マスク本体1に予め美肌用液を含浸させているので、この化粧用マスクを顔面に被せるだけで美肌用液を顔肌全面に付着させることができ、美肌用液の顔肌付着作業が簡単となる。又、この化粧用マスクは、所定時間だけ顔面に被せた状態で使用されるが、顔肌に付着した美肌用液は、マスク本体1が顔面に被覆されたままであるので乾燥しにくくなって、長時間に亘って美容効果を持続させることができるという効果がある。

【0026】又、マスク本体1に、遠赤外線放射物質（セラミックス微粉末）を付着させたものでは、化粧用マスクを顔面に被せたときに、該遠赤外線放射物質が顔肌温度で加温されて遠赤外線を放射するようになり、上記したように美容効果を促進させる効果がある。

【0027】さらに、マスク本体1に通電物質塗布部2を設けたものでは、該通電物質塗布部2にイオン導入器3の電極導子35を接続して使用することができ、簡易な化粧用マスクでイオン導入による美容を行うことができるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本願発明の実施形態にかかる化粧用マスクの正面図である。

(4)

特開平 9-169617

5

6

【図2】図1のII-II拡大断面図である。

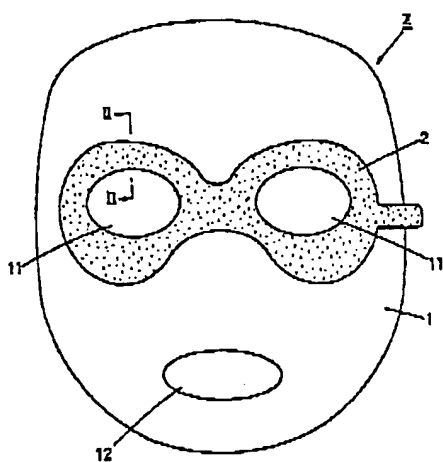
【図3】図1の化粧用マスクを顔面に装着した状態の正面図である。

【図4】図3の状態の電気回路図である。

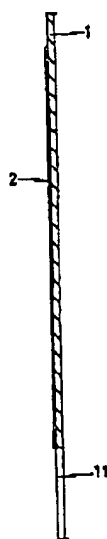
【符号の説明】

1はマスク本体、2は通電物質塗布部、3はイオン導入器である。

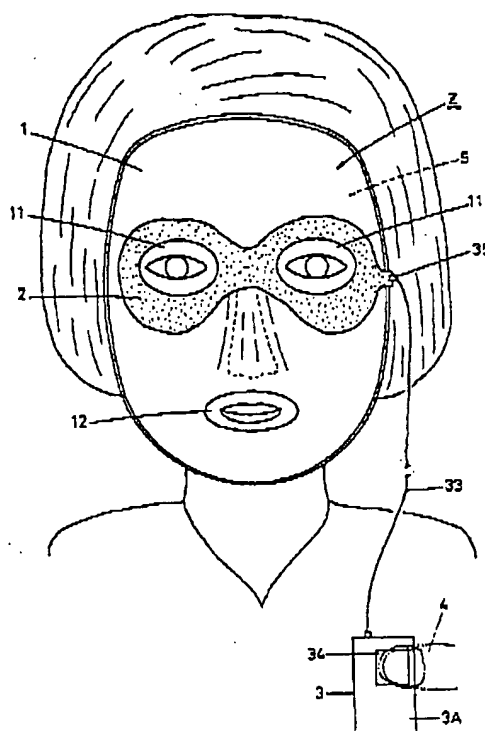
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

